

は し が き

国民健康保険は、国民皆保険の礎として発足し、地域住民の医療の確保と健康の保持・増進の両面で重要な役割を果たしてきました。

しかしながら、高齢化の進展や雇用環境の変化に伴い、区市町村の国民健康保険では、医療費が高く、また所得の低い高齢者や失業者など、低所得者の占める割合が高くなり、保険料（税）の確保が困難であるなどの構造的な問題を抱えています。そのため区市町村は、保険料（税）の未収やその他の赤字補てんのため、一般会計から多額の法定外繰入を行っており、厳しい財政運営を余儀なくされています。

このような中、平成27年5月に「持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律」が成立し、財政支援の拡充により国民健康保険の財政基盤の強化を図った上で、平成30年度からは、都道府県が財政運営の責任主体となり、区市町村とともに国保運営を担うこととなりました。

都は、安定的な財政運営及び区市町村が担う国民健康保険事業の広域化・効率化を推進するため、区市町村との協議を経て、「東京都国民健康保険運営方針」を平成29年12月に策定しました。この方針の下、平成30年4月から、区市町村と一体となって国民健康保険事業を運営してまいります。

また、都は、国民健康保険事業の円滑かつ健全な運営を図る観点から、今後とも、各区市町村及び国民健康保険組合に対する指導、助言及び情報提供を積極的に行ってまいります。

本書は、平成28年度における東京都の国民健康保険事業の状況をまとめたものです。

本書の有効活用をお願いするとともに、本書の作成に御協力いただきました各区市町村及び国民健康保険組合をはじめ関係機関の皆様に心から御礼申し上げます。

平成30年3月

東京都福祉保健局保健政策部